介護支援専門員(ケアマネジャー)の業務 効率化・ICT(情報通信技術)の導入によ る働きやすさについて

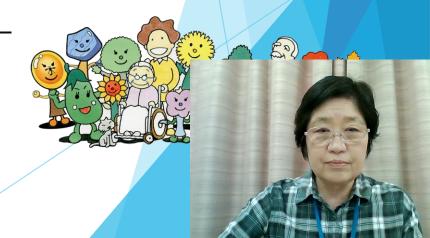
令和5年11月3日 鈴鹿グリーンホーム 取組報告会・地域報告会

在介係 居宅介護支援部門 主任 田中 清美

在介係 居宅介護支援部門 主任 鳥羽 たつみ

在介係 居宅介護支援部門 南橋 ます代、西村 拓也、小野 隆一

~私たちは、地域に信頼されるべき存在であり続けます~



鈴鹿グリーンホーム 居宅介護支援事業所



設置主体: 社会福祉法人 鈴鹿福祉会



主な活動地域:鈴鹿市西部地域など



所属職員:介護支援専門員5名(ケアマネジャー)

内 主任介護支援専門員2名



居宅介護支援事業所の仕事内容とは?

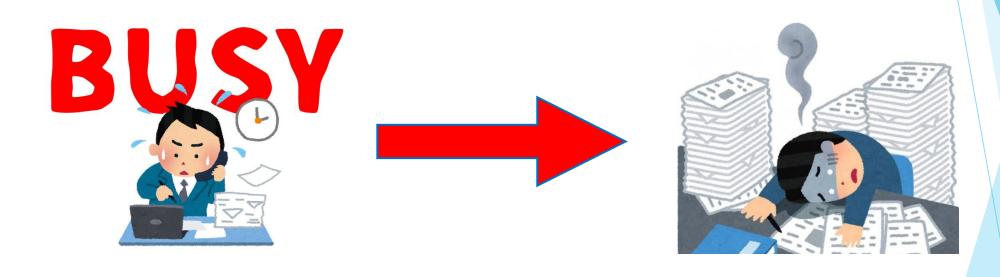
私たち介護支援専門員(ケアマネジャー)は、地域のみなさまの 介護保険に関する各種相談などに対応しています

- ・ご利用者との面談、相談
- ・介護保険などに関する諸手続きの支援
- ・ケアプラン作成
- ・介護事業所等との連絡や調整
- ・介護保険の給付管理 など





私たちケアマネジャーは、日々たくさんの 業務に関わらせていただいていますが・・・



相談支援記録の入力、各事業所との連絡・調整、ケアプランや役所に提出する書類等の作成など、多くの業務を抱えており、それらの量や費やす時間が年々増加しています



- これまでの業務の方法を 根本から考え直す=変える!
 - →それが I C T (情報通信技術) の導入でした!



電話・FAX・紙媒体



対面での相談業務や研修、会議の参加











電子メール、音声入力ソフト、 コミュニケーションアプリ、 オンライン会議・研修など



ICT化への取り組み①

- 郵送・電話・FAX ⇒ 電子メール・コミュニケーションアプリ(SNS) などを活用
 - ➤事業所専用のメールアドレスを取得、GメールやLINEWORKSなどのアプリを導入
 - ➤郵送・電話・FAX以外で連絡可能な各サービス事業所、利用者・家族には、 電子メールやスマホメール(キャリアメール)などを活用
 - ▶電子メール等でのやり取りは、時刻、相手の状況などに制約されない場合が多く、お互いに情報交換しやすいまた過去のやり取りも確認できるのでミスを防ぎやすい
 - ➤情報シート作成や支援経過記録などは音声入力ソフトを活用 →入力時間の大幅な短縮と労力の軽減となった

ICT化への取り組み②

- サービス担当者会議、研修をオンラインにて開催
 - ※サービス担当者会議とは、ケアマネジャーが作成したケアプランの内容を 利用者・家族と介護サービス事業者等が参加し、共有を図る会議です
 - ⇒(ICT導入後)オンライン会議アプリを活用して開催 Zoom、自宅とどちらからでも参加可能となり参加率も上がりました







毎週の事業所会議をはじめ、研修についても毎月数回は必ずオンラインで 開催・受講しています業務効率化だけでなく、感染予防対策にもつながっています。



その他の業務効率化



- 各帳票類のデジタルデータ化⇒ペーパーレス化へ
- 利用者の関係書類(介護保険被保険者証、お薬手帳など)を写真や スキャナーで取り込む
- ケアプランなどの帳票類を紙に印刷せず、PDF化して取り扱う

<メリット>

- 法人内でも、各部署へ電子メールに帳票類を添付し送信することで、 紙の削減やコピーし各部署に回覧や配付する手間(労力)が大幅に 軽減)
- 紙で保管せず、デジタルデータ化(パソコンに保存)→書類の省スペース化 BCP対策のため必要最小限は紙媒体でも管理(併用)
- デジタルデータを電子メール等に添付し、利用者・家族やサービス 事業所とやり取りができる(情報共有がしやすい)



LIFEへの理解について

- LIFEとは…利用者の状態やケアの内容など データを国に提出すると、分析・評価結果とし てフィードバックされるシステムです フィードバック情報を活用し、"PDCAサイク ル"を回すことでケアの質向上、自立支援につな げることが期待されています
- 今後の居宅介護支援でのLIFE導入を想定し LIFEへの理解を深めるために研修参加や実 証事業に参画しています
- 実証事業:毎月、各ケアマネジャーがLIFE ヘデータ提供を行っています フィードバック票を活用し、ケアプランの見直 しやサービス担当者会議での情報共有等を試行 することになっています





リモートワークの取り組み



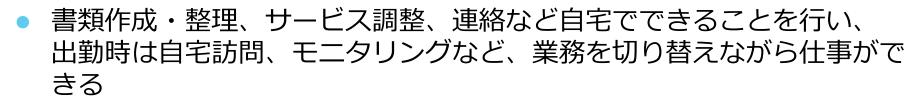
- 外出先での端末操作(パソコン・スマートフォンなど)で、記録の入力や各帳票類の作成可能に
- →外部パソコンからインターネット経由で施設内のネットワーク(施設サーバー)へアクセス
- ⇒スマホのテザリング機能を活用し、訪問先でZoomでの会議、 訪問と訪問の隙間時間にモバイルワーク行えるよう環境整備
- ノートPCの台数も増え更にリモートワーク行いやすい環境に
- ※年々、個人情報の取り扱いに関するリスク管理、情報セキュリティーへの対策ハードルが上がっていくと考えられるため、専門業者と適宜、相談しながら対応しています





リモートワークを実施して

- 通勤に掛かる時間やストレスが軽減された
- 家族のためのなど生活の時間が確保できるようになった (ワーク・ライフ・バランスの確保)



- 職員が体調に不安があったり、事業所内で発生した場合でも、すぐにリモートワークに切り替えることで業務を継続することができた
- 残業時間が削減⇒ノー残業デーの実施が可能に

→今後も在宅ワークを継続的にうまく実施することで、働きやすさも確保 しながら業務にあたりたい





まとめ





- より業務効率化、働き方改革を進めるためには、事業所等に広く ICTの導入メリットを発信し、共に改善していく必要がある
- テレワークやモバイルワークの拡張、新たなテクノロジーを検討・実施することで生産性向上や業務効率化にもつながる
- ケアプランデータ連携システム、AIの活用
- ノー残業デー、ワークライフバランスによる働きやすさの提案
- ICTを活用していく一方で非常災害時のBCP等への対応(紙媒体)も 併用して行っています
- 経営理念「私たちは、地域に信頼されるべき存在であり続けます」です

信頼いただけるよう従事するのはもちろん、ケアマネジャーの魅力を 発信していける事業所になりたいと考えます

ご清聴ありがとうございました!





社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

